

環境活動レポート

2019年度

2019年4月—2020年3月

ご挨拶

建築の産業廃棄物の収集運搬、中間処理施設と民間業者では初めて札幌市より許可を取得して以来、リサイクルシステムに微力ながらも貢献すべく努力して参りました。今後も引き続き、『地球環境に貢献する建設現場のサポーター』を合言葉に全社一丸となり積極的に取り組んでいく所存であります。

エコライン株式会社

〒003 - 0869 北海道札幌市白石区川下 641 - 170

TEL 011 - 874 - 0570 FAX 011 - 873 - 2046

E-mail [info@ecoline - kk.co.jp](mailto:info@ecoline-kk.co.jp)

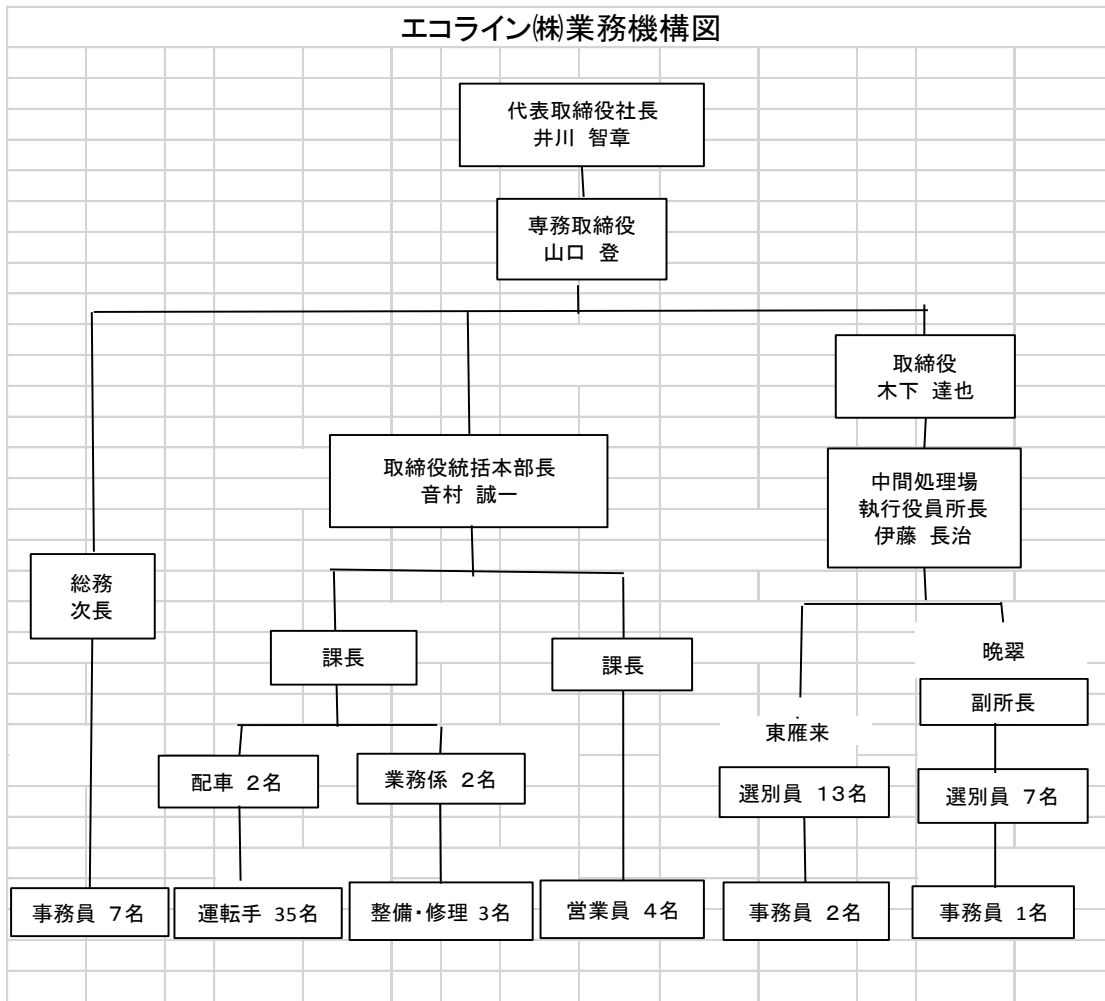
URL [http://www.ecoline - kk.co.jp/](http://www.ecoline-kk.co.jp/)

発行日：2020年5月11日

会社概要	2	3	4	5	6	7	8
						別紙1	15
						別紙2	16
1. 対象範囲（認証登録）							8
2. 環境改善活動の取り組み体制							9
3. 環境に関する基本方針							10
4. 環境目標と実績						11	12
5. 環境改善活動の評価及び次年度の取組み						12	13
6. 法的及び組織が同意するその他の要求事項							14
7. 2019年度活動の最高責任者の評価と今後の課題							14
8. 別紙1							15
9. 別紙2							16

■ 会 社 概 要

- 会 社 名 : エコライン株式会社
- 所 在 地 : (本社) 北海道札幌市白石区川下641-170
(東雁来リサイクルセンター) 札幌市東区東雁来262番地132
(晩翠リサイクルセンター) 空知郡南幌町南10線西14番地
- 代 表 者 氏 名 : 代表取締役社長 井川 智章
- 事 業 内 容 : 一般貨物輸送・産業廃棄物の収集運搬及びリサイクル並びに中間処理
- 設 立 : 昭和50年10月24日
- 資 本 金 : 60,500,000円
- 売 上 高 : 1,135,007,000円
- 従 業 員 数 : 87名 (パート社員 1名含む)
- 敷 地 面 積 : 本社 15,849.62㎡
東雁来リサイクルセンター 18,604.00㎡
晩翠リサイクルセンター 16,536.20㎡
- 延 床 面 積 : 本社 486.00㎡
東雁来リサイクルセンター 1,351.00㎡
晩翠リサイクルセンター 3,070.93㎡
- 沿 革 :
 - 昭和42年 山本 禎男が個人で運送業を開始。
 - 昭和50年10月 運送免許を取得し株式会社に改組。札幌市白石区北郷より白石区川下に本社を移転。
 - 平成12年3月 湯佐英司が社長に就任し北興グループの一員となる。
 - 平成18年3月 山本山運輸(株)、小林運輸(株)が合併し社名をエコライン(株)とし新たなスタートを切る。
 - 平成19年7月 中老田正信が社長に就任する。
 - 平成19年8月 松下運輸(株)より事業譲渡を受け新生エコライン(株)がスタートする。
 - 平成21年6月 建設系産業廃棄物の一般受入開始。
 - 平成26年5月 井川 智章が社長に就任する。
 - 平成28年12月 空知郡南幌町に晩翠リサイクルセンターオープン。



(1) 事業規模

① 収集運搬業

- ・ 運搬車両の種類と台数：43台（ユニック車30台、パッカー車6台、その他7台）
- ・ 積替保管施設の有無と面積及び保管上限量：有 空知郡南幌町字幌向原野1013番13、面積 34.17㎡、保管上限103.6㎡
- ・ 種類（産業廃棄物）

北海道	燃え殻・汚泥・廃油・廃プラスチック類・紙くず・木くず・繊維くず・ゴムくず・金属くず・ガラス・コンクリートくず・陶磁器くず・がれき類・ばいじん・廃酸・廃アルカリ
-----	---

- ・ 種類（特別管理産業廃棄物）

北海道	廃油・廃酸・廃アルカリ・特別有害産業廃棄物（廃石綿等）
-----	-----------------------------

② 処分業

○東雁来リサイクルセンター

- ・処理施設の種類：選別、圧縮～廃プラスチック類（石綿含有産業廃棄物であるものを除く）
- ・処理する産廃の種類：一般廃棄物及び特別管理産業廃棄物であるものを除く下記の産業廃棄物（工作物の新築、改築、又は除去に伴って生じたものに限る。）

圧縮	廃プラスチック類（石綿含有産業廃棄物であるものを除く）
選別	廃油（アスファルト防水材に限る）・廃プラスチック類・紙くず・木くず・繊維くず・金属くず・ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず・がれき類・石膏ボード

- ・処理能力：選別 80 t/日、圧縮 3.36 t/日
- ・処理方式：中間処理
- ・処理工程図（別紙 1）受入⇒手選別⇒搬出先（焼却、破碎、埋め立て）

○晩翠リサイクルセンター

- ・処理施設の種類：破碎、圧縮

圧縮	廃プラスチック類、紙くず
破碎	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類

- ・処理能力：圧縮 10.9 t/日
 破碎 廃プラスチック類・42.2 t/日、紙くず・72.3 t/日、木くず・99.4 t/日、繊維くず・21.7 t/日、金属くず・68.1 t/日、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず・180.7 t/日、がれき類・184.5 t/日
 木くず（チップ）・76.0 t/日
- ・処理方式：中間処理
- ・処理工程図（別紙 2）受入⇒前処理⇒破碎⇒焼却、埋立、売却

(2) 処理実績

産業廃棄物取扱量 (中間処理)	2017年度		2018年度		2019年度	
	処分実績 単位 (t)	割合 (%)	処分実績 単位 (t)	割合 (%)	処分実績 単位 (t)	割合 (%)
木くず	4,179	17	5,497	19	8,427	26
紙類	370	1	323	1	392	1
金属くず	2,521	10	2,663	9	2,333	7
がれき類	2,337	9	3,826	13	2,201	6
ガラス、コンクリートくず 及び陶磁器くず	9,907	40	8,865	30	8,923	26
石膏ボード	1,180	6	1,402	5	1,088	3
廃プラスチック	4,069	16	4,136	14	4,558	13
繊維くず	24	0	24	0	24	0
廃油	126	1	87	0	73	0
汚泥	0	0	0	0	0	0
その他	266	1	2,811	9	6,324	18
残さ		0		0		0
年間中間処理量 (t)	24,979	100	29,634	100	34,343	100

収集運搬 (当社中間処理)	2017年度		2018年度		2019年度	
	運搬実績 単位 (t)	割合 (%)	運搬実績 単位 (t)	割合 (%)	運搬実績 単位 (t)	割合 (%)
木くず	2,352	16	3,919	16	6,281	25
紙類	233	2	231	2	305	1
金属くず	1,510	11	1,968	11	1,599	6
がれき類	1,351	9	2,884	9	2,642	10
ガラス、コンクリートくず 及び陶磁器くず	5,579	39	6,222	39	5,182	20

石膏ボード	711	5	1, 000	5	615	2
廃プラスチック	2,350	17	2,941	13	2,578	10
繊維くず	12	0	12	0	12	0
廃油	78	1	62	0	106	1
その他					6,324	25
年間中間処理量 (t)	14,176	100	22,050	100	25,644	100

収集運搬 (運搬のみ) (t)	2017年度		2018年度		2019年度	
	運搬実績 単位 (t)	割合 (%)	運搬実績 単位 (t)	割合 (%)	運搬実績 単位 (t)	割合 (%)
木くず	694	41	843	22	391	19
紙類	40	2	4	0	31	2
金属くず	4	0	2	0	2	0
がれき類	725	42	2, 520	66	1,197	58
ガラス、コンクリートくず 及び陶磁器くず	30	2	19	1	83	4
石膏ボード	38	2	1	0	23	1
廃プラスチック	56	3	139	4	76	4
繊維くず	0	0	0	0	0	0
廃油	42	2	25	1	66	3
汚泥	44	3	227	6	120	6
その他	21	0	1	0	4	0
収集運搬(運搬のみ)計(t)	1,694	99	3,781	99	1,993	97
特管物	17	1	33	1	65	3
年間中間処理量 (t)	1,711	100	3,814	100	2,058	100

収集運搬 (運搬のみ) (m ³)	2017年度		2018年度		2019年度	
	運搬実績 単位(m ³)	割合 (%)	運搬実績 単位(m ³)	割合 (%)	運搬実績 単位(m ³)	割合 (%)
廃プラスチック	317	97	4	10	102	10
ガラス、コンクリートくず 及び陶磁器くず	0	0	17	43	168	43
廃油	9	3	19	47	42	47
廃アルカリ	0	0	0	0		0
がれき類	0	0	0	0		0
その他	0	0	0	0	7	0
収集運搬(運搬のみ)計(m ³)	326	100	40	100	319	100

再資源化	2017年度		2018年度		2019年度	
	再資源化 実績	割合	再資源化 実績	割合	再資源化 実績	割合
	単位(t)	(%)	単位(t)	(%)	単位(t)	(%)
木くず	3,868	44	5,497	49	8,427	60
紙類	370	4	313	3	392	3
繊維くず	24	0	0	0	0	0
廃プラスチック	786	9	837	7	667	5
金属くず	2,459	28	2,663	24	2,333	16
がれき類		0		0		0
その他	1,306	15	2,020	18	2,208	16
再資源化計	8,814	100	11,330	100	14,027	100

(3) 廃棄物の処理料金

- ・運搬距離、廃棄物内容、回収形態等により、都度見積を行う。

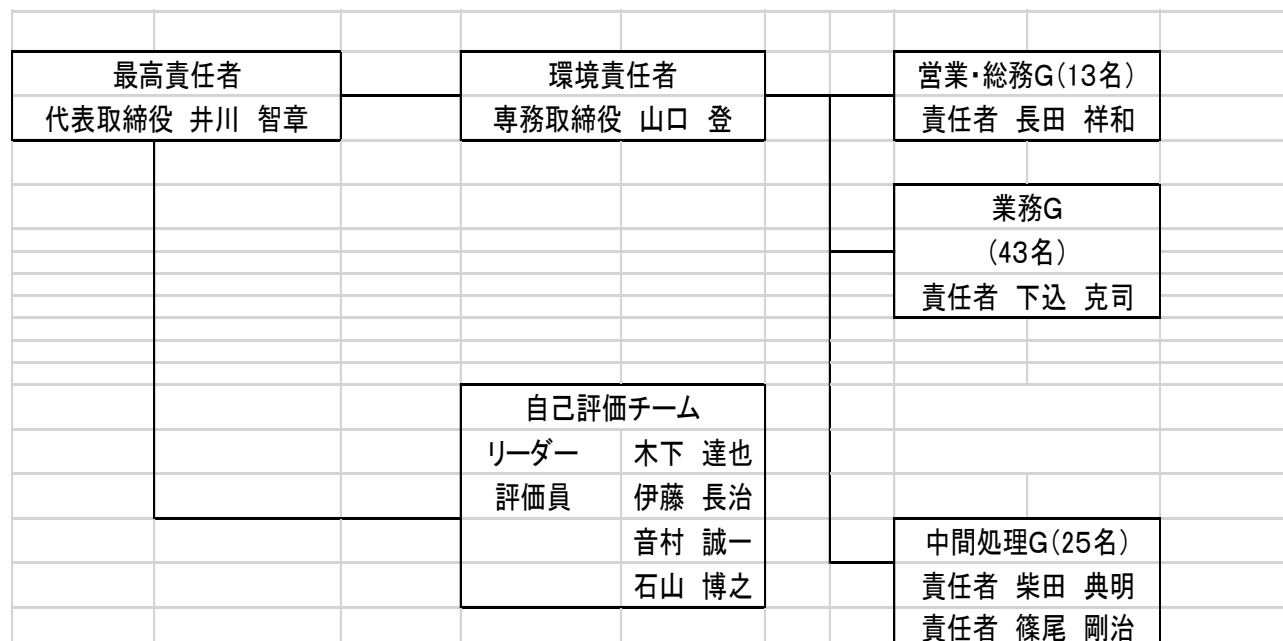
(4) 許認可一覧

許可証	内容	有効期限	自治体名
一般区域貨物自動車運送事業：札幌自第 2329 号 許可年月日：昭和 50 年 10 月 9 日	貨物輸送		陸運局
産業廃棄物収集運搬業許可番号：第 00110018732 号 許可年月日：平成元年 11 月 14 日	・収集運搬	平成 35 年 2 月 24 日	北海道
特別管理廃棄物収集運搬業許可番号：第 00150018732 号 許可年月日：平成 23 年 3 月 4 日	・収集運搬	平成 35 年 3 月 3 日	北海道
産業廃棄物処分許可番号：第 05120018732 号 許可年月日：昭和 51 年 4 月 28 日	・選別 ・圧縮	平成 35 年 3 月 7 日	札幌市
一般廃棄物収集運搬業許可番号：札幌一廃抜根許可第 9 号 許可年月日：平成 4 年 4 月 1 日	・収集運搬	令和 3 年 7 月 3 日	札幌市
産業廃棄物処分許可番号：第 00120018732 号 許可年月日：平成 28 年 12 月 10 日	・圧縮 ・破砕	平成 33 年 12 月 9 日	北海道

1. 対象範囲（認証・登録）

- 対象組織 本 社 : 北海道札幌市白石区川下 6 4 1 番地 1 7 0
東雁来リサイクルセンター：北海道札幌市東区東雁来町 2 6 2 番地 1 3 2
晩翠リサイクルセンター：北海道空知郡南幌町南 1 0 線西 1 4 番地
- H E S 適用範囲： 一般貨物自動車運送業、一般廃棄物（伐採物、抜根等）収集運搬、
産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物の収集運搬、建設廃棄物及び産業廃棄物
の中間処理
- E A 2 1 適用範囲： 産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物の収集運搬、産業廃棄物の中間処理

2. 環境改善活動の取り組み体制



○ 管理責任者

山口 登

(連絡先:011-874-0570)

○ HES担当者

(連絡先:011-874-0570)

3. 環境に関する基本方針

<基本理念>

エコライン株式会社は、事業運営と地球環境の保全を両立し、住み良い北海道の地域社会を実現するために、全組織を挙げて環境改善活動に取り組めます。

<方 針>

エコライン株式会社は、産業廃棄物収集運搬及びリサイクル並びに中間処理等、及びそれに関するサービスの提供により発生する環境影響を低減するために、次の方針に基づき、環境改善活動を推進します。

1. 当社の活動、製品及びサービスが関わる環境への影響を常に意識し、全事業所において環境マネジメントシステムを継続的に改善し、汚染の予防にも努めます。
2. 環境に関する法的及び当社が同意するその他の要求事項を順守します。
3. 当社の活動、製品及びサービスが関わる環境影響要因のうち、以下の項目を環境改善活動の重点テーマとして取り組みます。
 - (1) 二酸化炭素排出量の削減（電気使用量、車両燃料の削減）
 - (2) 水資源の保全（一般水道水の使用量の削減）
 - (3) 循環型社会への対応（産業廃棄物のリサイクル率の向上）
 - (4) グリーン購入の推進
4. この環境に関する基本方針は、全従業員が理解し、行動できるよう周知徹底するとともに、社外にも公表します。
5. 地域密着型の環境保全活動に積極的に参画します。

この環境に関する基本方針を達成するために、環境目的・目標を設定し、当社の全従業員をあげて環境改善活動を展開するとともに、定期的に見直しを実施します。

2013年5月10日改定

エコライン株式会社

代表取締役社長 井川 智章

4. 環境目標と実績（H E S 適用範囲）（2019 年度）2019/4～2020/3

環境改善活動	具体的施策	目標値	実績値	評価
電気使用量の削減 2019 年度まで基準年度 2016 年度比 1%の削減	・冷暖房温度の設定 ・休憩時間の消灯 ・不要電源 OFF の励行	235,272 kWh/年	215,895 kWh/年	A
水の使用量の削減 2019 年度まで基準年度 2016 年度比 1%の削減	・車両洗車時の適正使用 ・節水パーツの利用	859 m ³ /年	596 m ³ /年	A
廃棄物排出量の削減 産業廃棄物リサイクル率 の向上 2019 年度までに 32%（含 む輸出）にする 基準年度数値 （2016 年度 29.0%）	・分別の徹底 ・廃プラ処分内訳見直し	32.0%/年	40.3%/年	A
グリーン購入 低廃出ガス認定かつ燃費基 準達成車への入替促進 2019 年度まで目標 2 台	・トラック 2 台	2 台/年	3 台/年	A

※取組スタートは 2011/6 月

※評価基準 A：達成率 100%以上
B：達成率 90%～100%未満
C：達成率 90%未満

追加環境目標と実績（2019 年度） 2019/4～2020/3

環境改善活動	具体的施策	目標値	実績値	評価
軽油使用量の削減 走行 1 km 当たりの使用量を 2019 年度 までに 2016 年度比 1.5%削減する （基準年度 2016 年度）0.340/1km）	・アイドリング ストップ ・配車高効率確保	0.3340/ km	0.3110/ km	A
ガソリン使用量の削減 営業収入百万円あたりの使用量を 2019 年度比 1.5%削減する （基準年度 2016 年度 11.750/1 百万円）	・アイドリング ストップ ・効率的営業の展開	11.570/ 百万円	9.520/ 百万円	A

中期環境目標（2017～2019年度）

項目	基準年度 2016年度	環境目標			環境目的
		2017年度	2018年度	2019年度	
省エネルギー	消費電力 241,018kwh/年	240,048 kwh/年	237,648 kwh/年	235,272 kwh/年	2019年度までに、 新施設の影響を 加味した使用量 から1%/年削減 する。
省資源	水の使用量 882 m ³ /年	875 m ³ /年	867 m ³ /年	859 m ³ /年	2019年度まで、新 施設の影響を加 味した使用量か ら1%/年削減す る。
産業廃棄物の 排出	リサイクル率 年29.0%	30.0%/年	31.0%/年	32.0%/年	2019年度までに 32.0%/年に引上 げ
グリーン購入	排ガス規制車の 導入	トラック 2台	トラック 2台	トラック 2台	2019年度までに トラック6台購 入する。
省エネルギー	1kmあたりの 軽油の使用量 0.34ℓ/1km	0.338ℓ/1km	0.336ℓ/1km	0.334ℓ/1km	2019年度ま でに▲1.5%削減 する。
省エネルギー	売上百万円あたりの ガソリンの使用量 11.75ℓ/百万円	11.69ℓ/百万円	11.63ℓ/百万円	11.57ℓ/百万円	2019年度までに ▲1.5%削減す る。

5. 環境改善活動の評価及び次年度の取組み

【電気使用量の削減】

○各拠点ともに計画達成。本社は前年比で削減、東雁来リサイクルセンターは前年比では増加しているが、監視カメラ増設とシステムの変更に伴うPC増及び1名増員によるものと思われる。晩翠リサイクルセンターは稼働率が上がってきており電気使用量も増加しているが、計画の範囲内となっている。全体で日常の休憩時間の消灯・省エネ機器への移行等の細やかな取組みは定着しており計画は達成。

2020年度も事業規模の拡大（晩翠リサイクルセンターの稼働率の向上）の中で環境改善に一層の努力を続けていく。

【水の使用量の削減】

○稼働車両数も落ち着き水の使用量は削減出来た。新施設の使用量については稼働率には大きく影響されず夏場に埃対策の散水で使用量増加したが、計画の範囲内。効率的・効果的洗車の取組で節水の意識は維持されている。

2020年度も引き続き効率洗車等節水の意識を維持してゆく。

【廃棄物排出量の削減】

○産業廃棄物リサイクル率向上については、東雁来・晩翠両リサイクルセンターの扱い量のバランスが取れてきたことから選別精度は維持されリサイクル率向上に繋がっている。廃石膏ボードのリサイクルについては当初想定ほどの量は実現出来ていないが、リサイクル率向上には貢献はしている。

2020年度は、引き続き両施設の人員の適正配置と受入量のバランスに留意し、選別精度の維持・向上を図るとともに廃石膏ボードのリサイクル強化に努める。

【グリーン購入】

○今年度も3台購入し、目標はクリアした。

2020年度も必要最低限の入替は実施予定で次期中期計画はクリア見込み。

【軽油使用量の削減】

○今年度は、雪の影響も少なく、作業時間より走行の比率が高い現場が多かったこともあり、前年比改善し、計画達成出来た。

2020年度は引き続きデジタコを有効活用し適正速度での運行を徹底し、自然環境に左右されず、計画達成出来るようにしてゆく。

【ガソリン使用量の削減】

○営業要員1名増で稼働しているが、売上高を維持できたことから目標は達成できた。引き続き効率営業に努める。

2020年度は一層使走的な訪問を減らし、効率営業を徹底してゆく。

【CO₂排出削減状況】（電力のCO₂排出計数は北海道電力㈱の平成30年実績 0.656 kg-CO₂/kwhを使用）

○晩翠リサイクルセンターの稼働率向上から総体では2020年3月期実績 1,867千kg-CO₂と2019年3月期実績 1,865千kg-CO₂対比 +2千kg-CO₂増加している。晩翠リサイクルセンターの稼働率向上の影響は電気使用量の増加でCO₂排出量では5千kg-CO₂に相当し、これを考慮すると▲3千kg-CO₂削減出来た。

6. 法的及び当社が同意するその他要求事項

○当社の事業活動に該当する環境に関する法的及び当社が同意するその他の要求事項については、順守状況を定期的に確認し、利害関係者からの指摘、訴訟等は無かった。

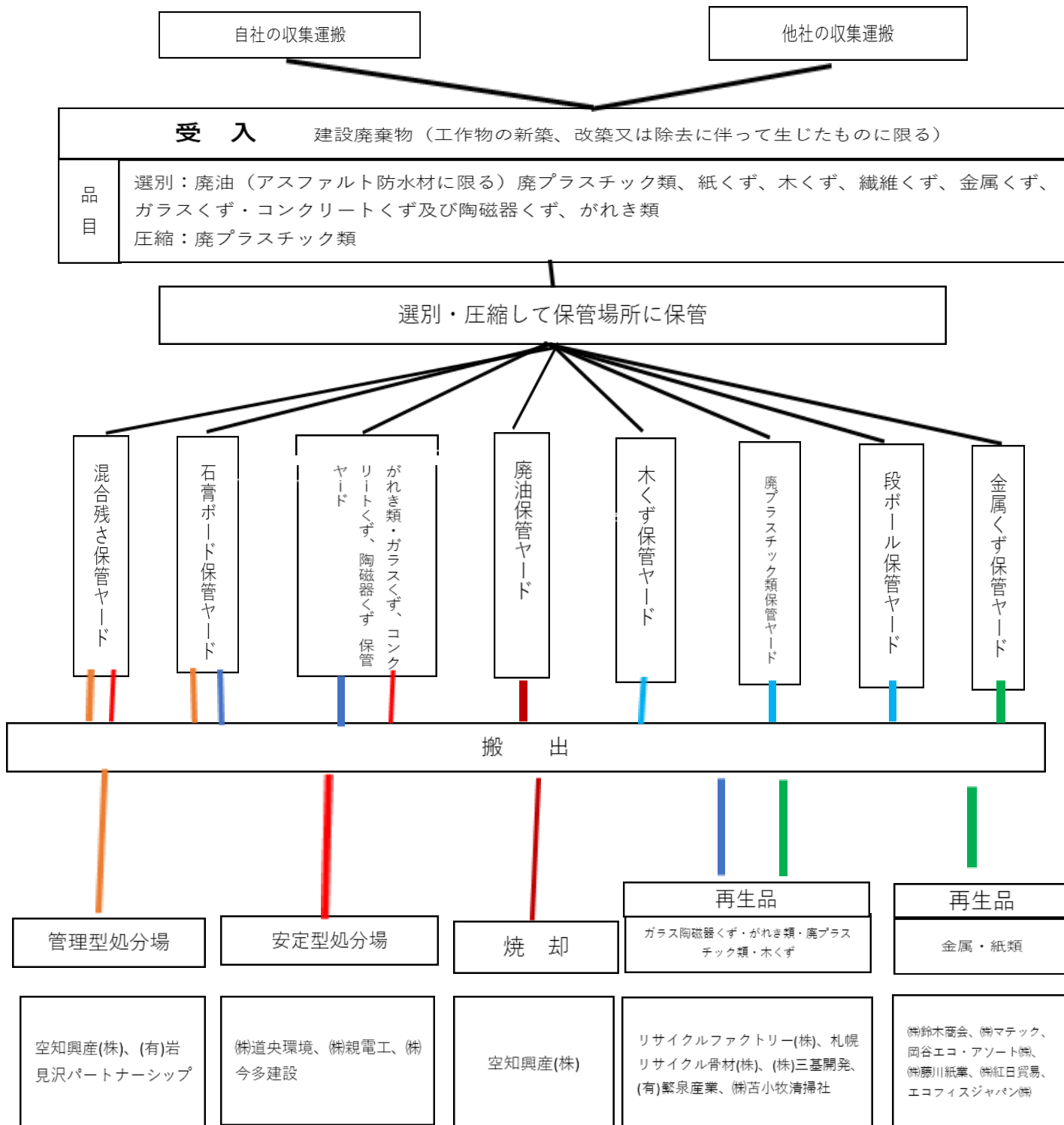
7. 2019年度活動の最高責任者の評価と今後の課題

○各項目とも計画達成しており、その取組姿勢は評価出来る。

○CO₂排出量については施設稼働率UPという事業規模の拡大による増加があるものの、事業規模が同等とすれば前年度実績比減少しており削減努力は認められる。

○廃石膏ボードのリサイクルについては未だ想定ほどの量になっていないが重要な項目の一つである。保管施設の整備（水濡れ対策）とともに今後の課題である。

中間処理施設（選別・圧縮）処理工程（東雁来リサイクルセンター）



中間処理施設（破碎・圧縮）処理工程図（晩翠リサイクルセンター）

